

2 章

都心5区の定住人口、

滞在人口の特性とコロナ禍による影響



2 章

都心5区の定住人口、滞在人口の特性とコロナ禍に

1

定住人口

(1) 分析結果の概要

都心5区の定住人口は近年継続的に増加していたが、コロナ禍の影響を受けた令和2(2020)年10月は増加率が低下し、新宿区、港区は前年比減少している。国籍別では外国人の減少数が大きく、日本人はかろうじて増加を維持している。

(2) 分析結果の詳細

ア 都心区における定住人口の動向

- ・コロナ禍の影響を受けた令和2(2020)年10月の対前年同期比増減率を都心5区で比較すると、過去5年間は各区とも増加しているが、令和2(2020)年10月はすべての区で増加率が低下している。
- ・中でも新宿区、港区の落ち込みが大きく、対前年同期比でマイナスとなっている。
- ・日本人は令和2(2020)年10月の対前年同期比がすべての区でプラスとなっているが、増加率は低下しており、港区の落ち込みが特に大きくなっている。
- ・外国人は令和2(2020)年10月の対前年同期比がすべての区でマイナスとなっており、総人口と同じく新宿区、港区の落ち込みが大きい。

図7 総人口(対前年同期比増減数、各年10月1日時点)

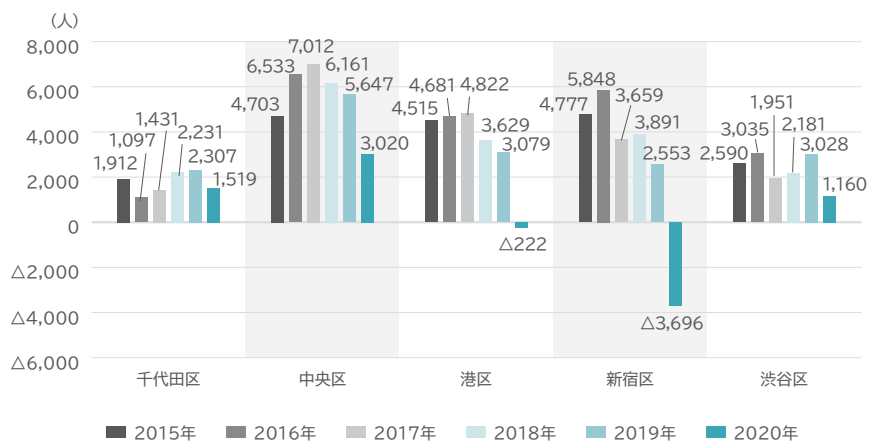


図8 日本人人口(対前年同期比増減数、各年10月1日時点)

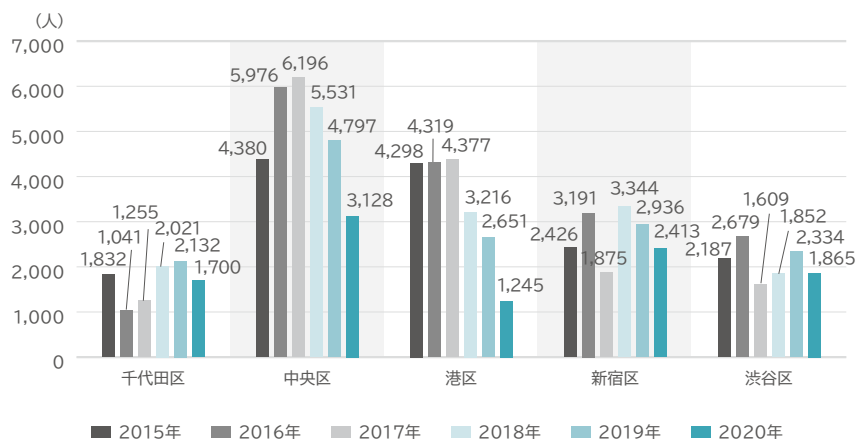
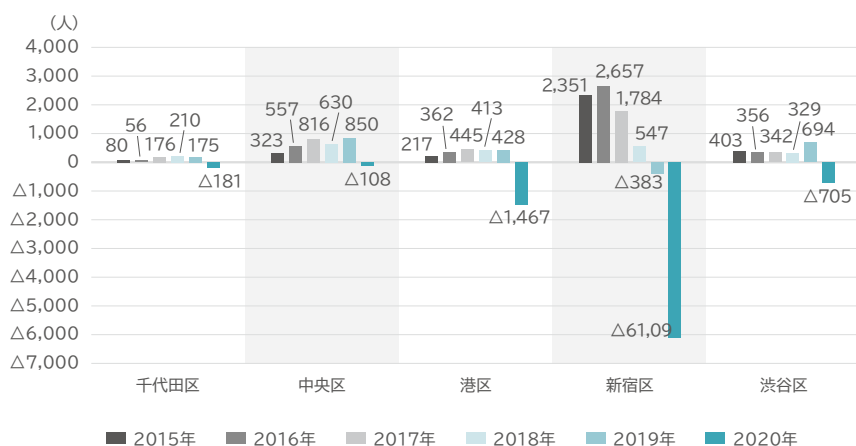


図9 外国人人口(対前年同期比増減数、各年10月1日時点)



出典：港区「住民基本台帳」

2 | 滞在人口

(1) 分析結果の概要

- ・コロナ前後の平日昼の滞在人口の減少は千代田区、港区が特に大きく約2、3割に達している。
- ・休日の滞在人口は平日と比較すると減少率は小さい。
- ・平日夜の滞在人口は新宿区が最も多いが、減少率は千代田区、港区で大きい。
- ・港区は、平日昼の地域別の滞在人口が他区のように特定の地区に集中しておらず、新橋、芝公園、虎ノ門、赤坂、芝、芝浦、港南など滞在人口が多い地区が分散している点の特徴である。
- ・コロナ以前の休日の滞在人口は新宿区が最も多く、港区、渋谷区がこれに次いでいる。新宿区、渋谷区は小売業の集積が大きいことが一因と考えられるが、港区の小売業集積は相対的に小さく、文化・学習・娯楽など他の要因も滞在人口集積に寄与していると推定される。

(2) 分析結果の詳細

ア 都心区における滞在人口と新型コロナウイルス感染症による影響（都心5区における比較）

- ・各区とも休日よりも平日においてコロナ前後の滞在人口の減少率が高い。
- ・平日昼の滞在人口の規模は港区が最も大きく、千代田区、港区でコロナ前後の減少率が大きい。
- ・平日夜の滞在人口は新宿区、港区が多いが、コロナ前後の減少率は千代田区、港区で大きい。
- ・休日では昼、夜とも滞在人口の規模は新宿区が最も大きい、コロナ前後の減少率は千代田区が最も大きい。

図10 滞在人口(平日14時)

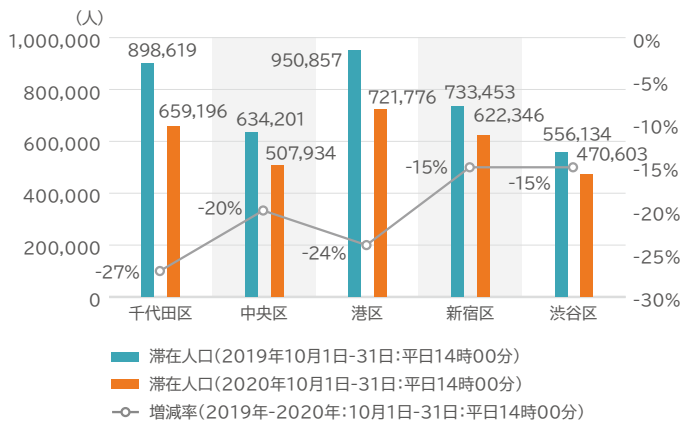


図12 滞在人口(平日20時)

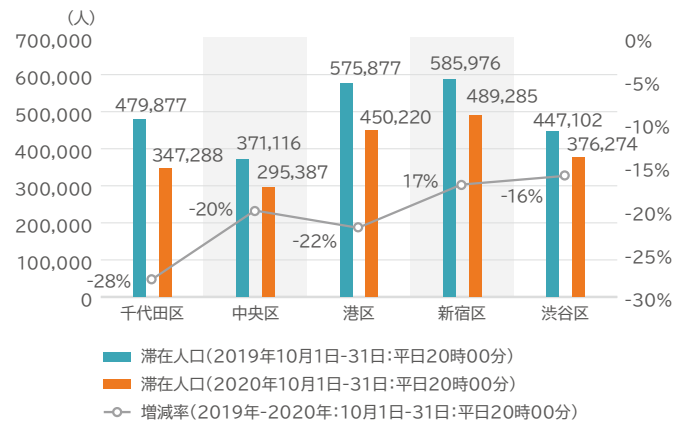


図11 滞在人口(休日14時)

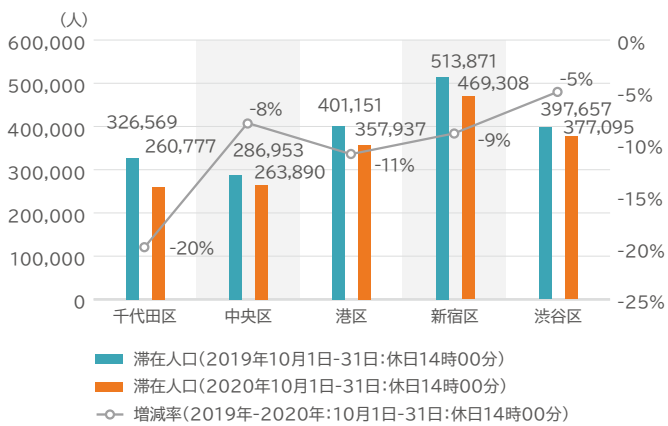
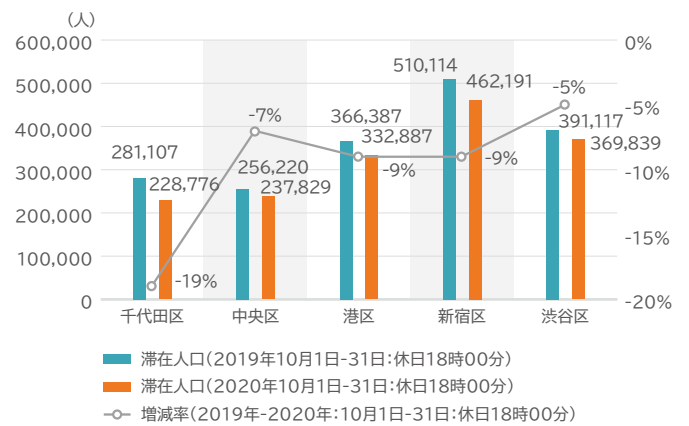


図13 滞在人口(休日18時)



出典: 株式会社NTTドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」

図14 滞在人口（平日14時、20歳代）

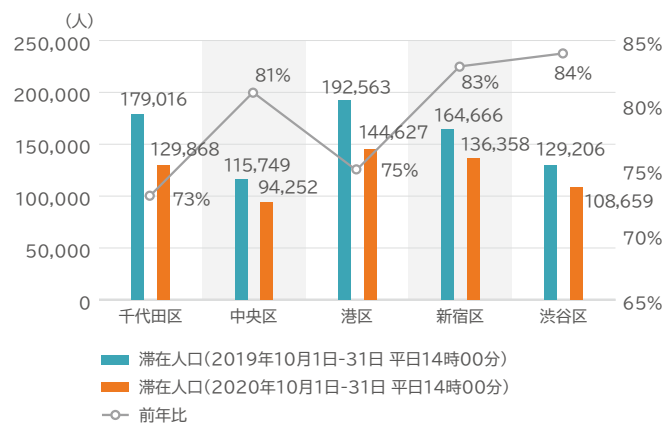


図15 滞在人口（平日14時、30歳代）

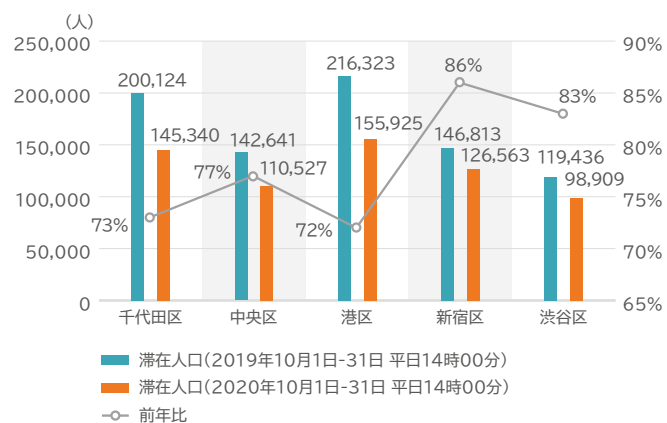
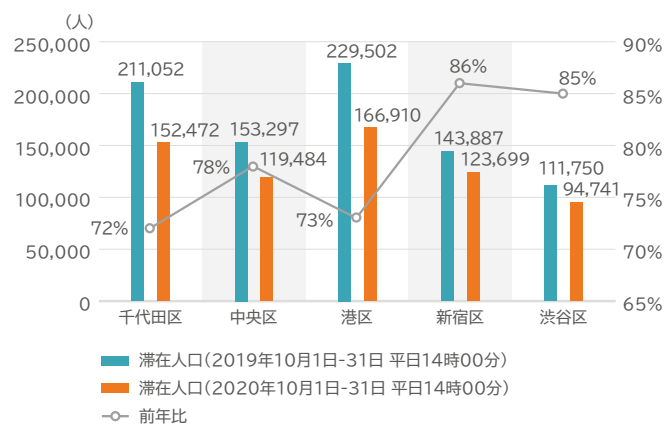


図16 滞在人口（平日14時、40歳代）



出典：株式会社NTTドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」

図17 滞在人口（休日14時、20歳代）

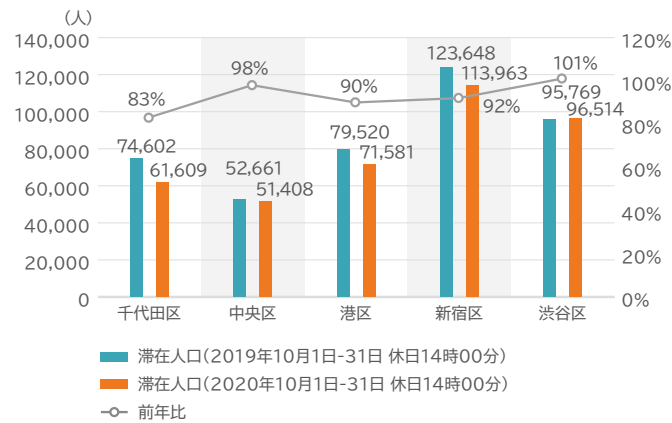


図18 滞在人口（休日14時、30歳代）

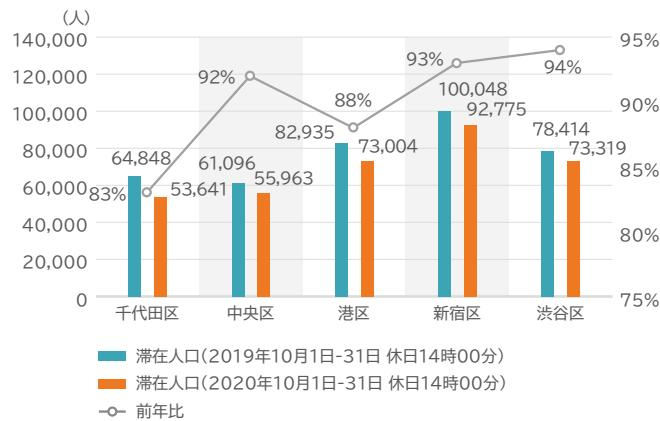
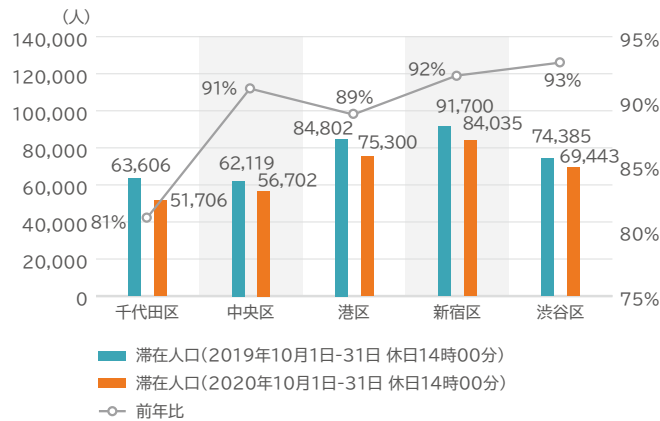


図19 滞在人口（休日14時、40歳代）



出典：株式会社NTTドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」

図20 滞在人口（平日20時、20歳代）

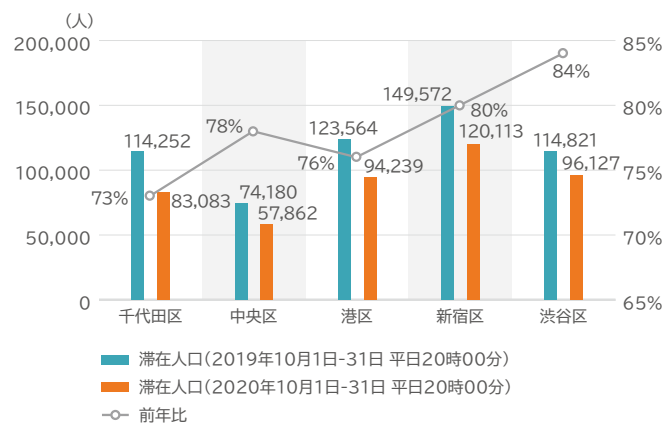


図21 滞在人口（平日20時、30歳代）

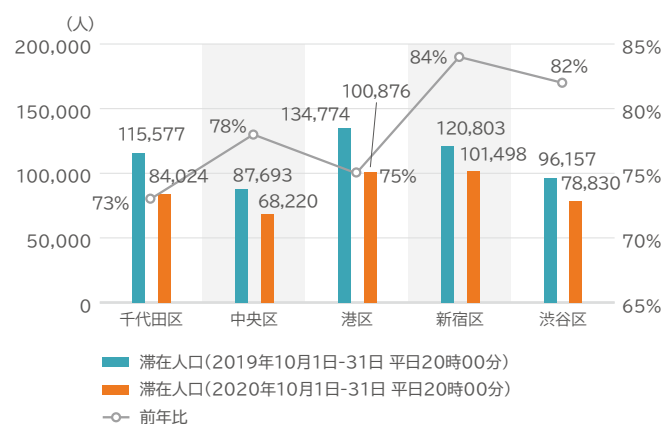
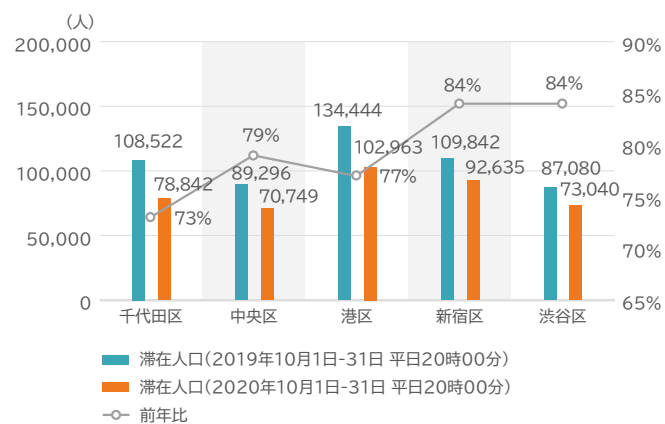


図22 滞在人口（平日20時、40歳代）



出典：株式会社NTTドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」

図23 滞在人口（休日18時、20歳代）

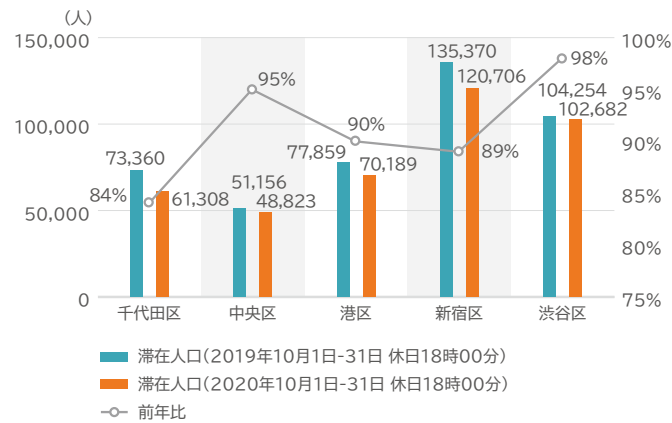


図24 滞在人口（休日18時、30歳代）

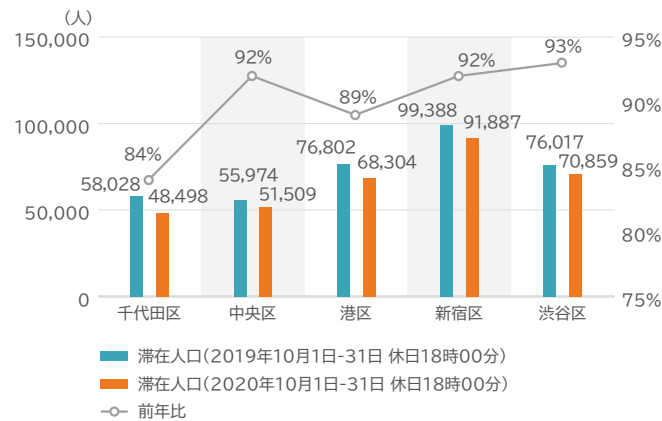
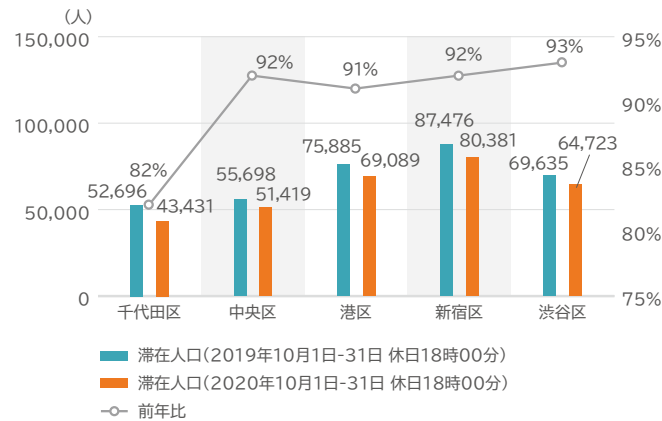


図25 滞在人口（休日18時、40歳代）



出典：株式会社NTTドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」

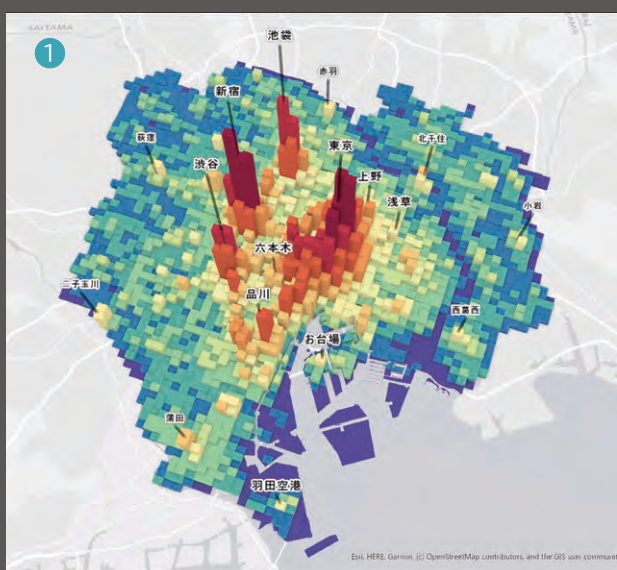
イ 都心区における滞在人口と新型コロナウイルス感染症による影響（各区内のエリア別の動向）

- ・千代田区、新宿区、渋谷区は平日、休日とも滞在人口が集中するターミナル駅周辺の拠点地区を有している。
- ・平日昼について、千代田区、新宿区、渋谷区はコロナ前後でこの拠点地区を中心に滞在人口が減少しているのに対し、千代田区に次いで滞在人口が減少している港区はこうした集中度の高い拠点がなく、コロナ前後で新橋、芝公園、虎ノ門、赤坂、芝、芝浦、港南など幅広いエリアで滞在人口が減少している。

図26 都心区における滞在人口と新型コロナウイルス感染症による影響

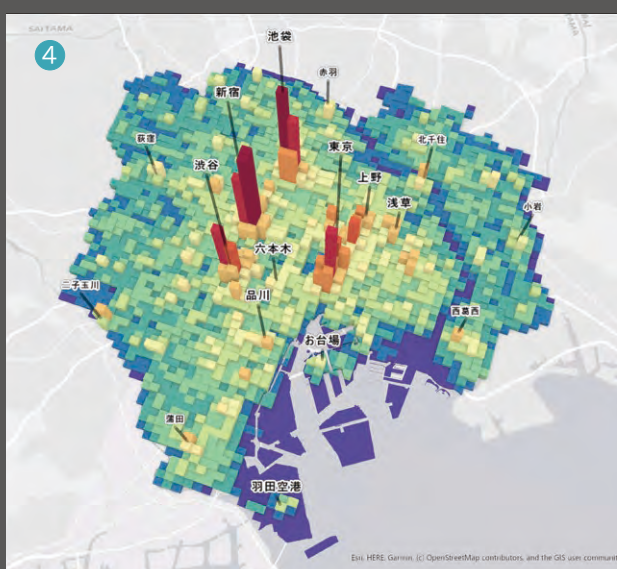
2019年10月1日-10月31日 平日14時

第一次緊急事
2020年4月16日

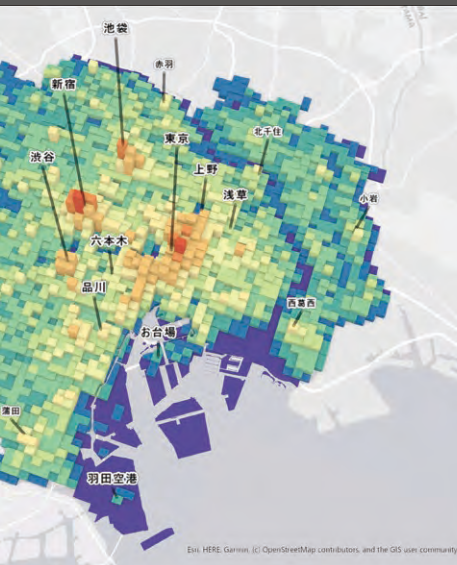


2019年10月1日-10月31日 休日14時

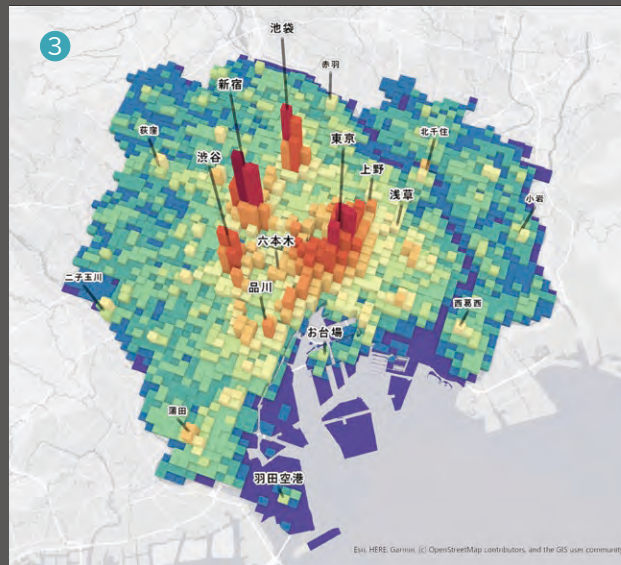
第一次緊急事
2020年4月16日



態宣言下
-5月25日 平日14時

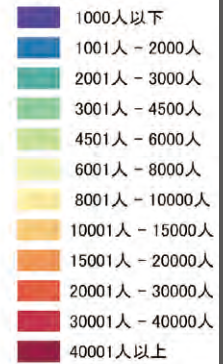


2020年10月1日-10月31日 平日14時

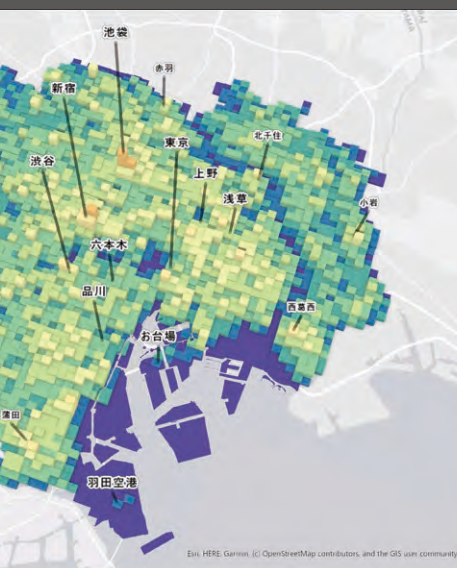


凡例

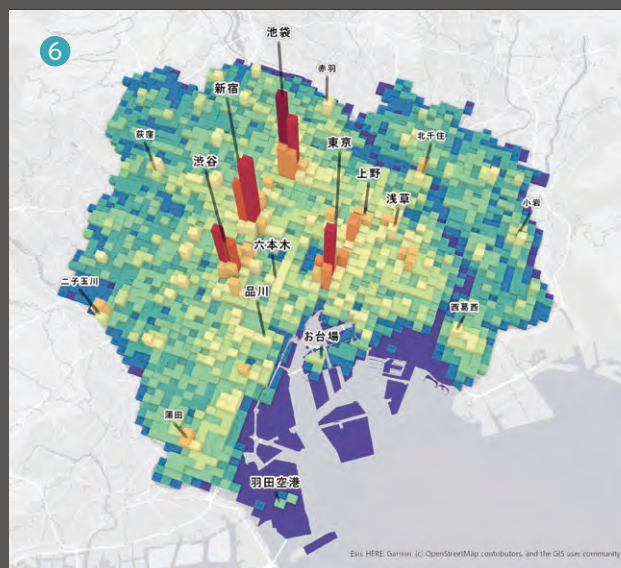
Population



態宣言下
-5月25日 休日14時

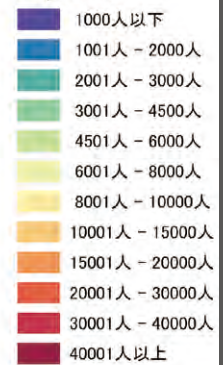


2020年10月1日-10月31日 休日14時



凡例

Population



3

滞在人口と主要都市機能との比較分析

(1) 分析結果の概要

- ・コロナ前後の平日昼の滞在人口の減少が千代田区、港区で特に大きい要因として、両区で働く従業者が多く、テレワーク実施率の高い大規模事業所が多いことが考えられる。
- ・休日の滞在人口が新宿区、渋谷区、港区で多い要因として、新宿区、渋谷区は小売業集積が大きいことが考えられるが、港区の小売業集積は相対的に小さく、文化・学習・娯楽などの要因も寄与していると推定される。

図27 全産業従業者数

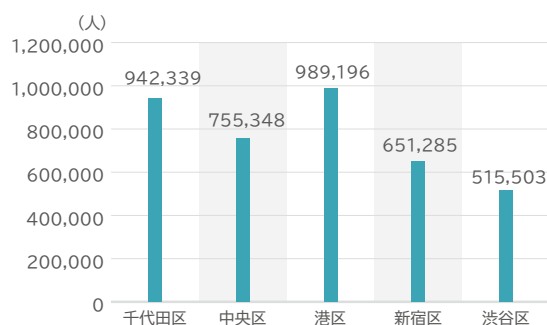


図28 事業所あたり従業員数

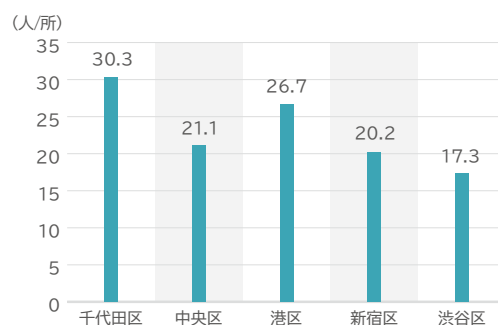


図29 小売業売場面積

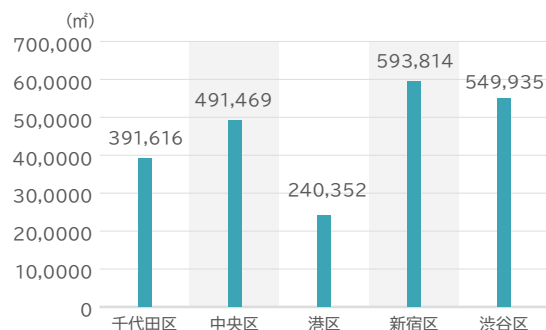
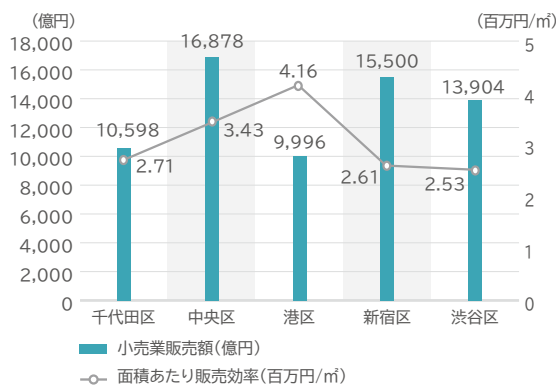


図30 小売業販売額及び面積あたり販売効率



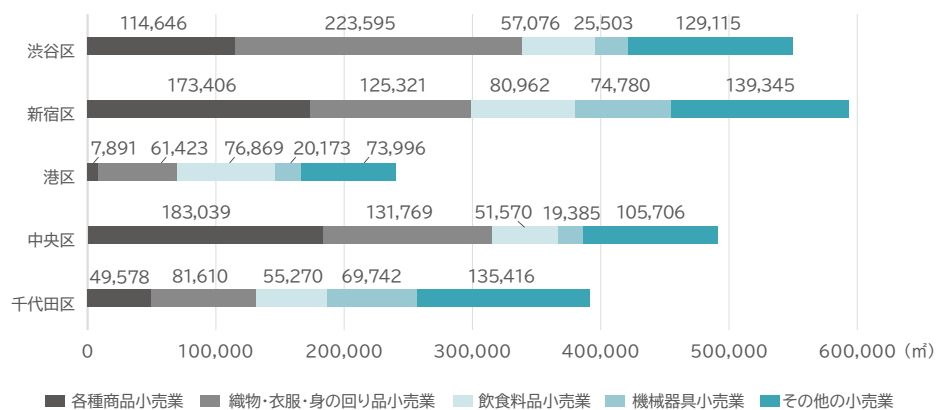
出典：総務省「平成28年経済センサス・活動調査」

(2) 分析結果の詳細

ア 滞在人口に関連する都市機能集積状況

- ・平日昼間の滞在人口と相関が高いと考えられる従業者数は千代田区、港区が多い。また事業所当たりの従業員数も千代田区、港区と他3区とは格差があり、滞在人口と同様の傾向を示している。
- ・休日昼間の滞在人口と相関が高いと考えられる小売業売場面積は、港区は都心区の中で最も規模が小さく、他4区と比較して大きな格差がある。販売額は、売場面積効率が最も高いことから千代田区と概ね同程度であるが、大規模な商業集積を有する中央区、新宿区、渋谷区とはやはり大きな格差がある。

図31 小売業売場面積（産業分類別）



出典：総務省「平成28年経済センサス・活動調査」

- ・売り場面積が他区と比べて小さい要因として、各種商品小売業（百貨店、スーパーなど）が他区と比較して極端に少ないことが要因となっていると考えられる。

